

熊本県認定農業者連絡会議との意見交換会概要

日時：平成27年9月14日（月）

場所：旅亭 松屋本館 2階松風

平成27年9月14日に、熊本県認定農業者連絡会議理事と農地中間管理機構との意見交換会を開催しましたが、概要は以下のとおりです。

1 農業公社から農地中間管理事業の実施状況を説明

- ・ 昨年度実績
- ・ 今年度からの運用改善内容

2 意見交換（機構事業の活用推進の方法提案）

① A氏

- ・ 受け手にとっては良い事業と思うが、出し手には情報が伝わっていない。担い手に事業周知しながら、関心のない人にどう伝えるか。JAを通した事業推進が有効ではないか。JAの理事、農業委員、JA部会役員、JAの担当者にしっかりと理解させることが大切。
- ・ JA担当理事が、集積にしっかりした考えを持つことが大切。
- ・ 農地では貸す相手が誰かが気になるので難しい。

② B氏

- ・ 基盤整備と絡めて進めてはどうか。整備事業の際は、地区の農家が話し合いのうえ事業を進めていくので、話し合う機会がある。そういう場で、事業の必要性を説明するなどして、推進してはどうか。

③ C氏

- ・ WCSで8万もらえるため、地主は利用権を手放さない。この政策はいけないと思う。
- ・ 出し手を確保するため、小さな集落単位で説明してもらわなくてはいけない。

④ D氏

- ・ どの農地を借りるかは、地形や作物の特徴が関係してくる。
- ・ 私の営農地域では出し手が多いが、条件が良い農地は契約済み。
- ・ 樹園地は条件が悪く、整備しても費用対効果が上がらない。

⑤ E氏

- ・ 施設園芸なので中間管理の条件に合わない。30年は使い続けられる。

⑥ F氏

- ・ 他地区から入ってきている人は、共同作業も出てこないのが問題。
- ・ 山間地は借りる人も嫌になるのではないか。

⑦ G氏

- ・ WCSの8万円が集積を阻害している。

⑧ 佐藤事務局長

- ・ 農業委員会では1ha運動で農地の意向調査をしている。活用してもらいたい。

⑨ 公社

- ・ いろいろなご意見ありがとうございました。公社では、農業者の皆様に農地中間管理事業を大いに活用していただきたいと考えており、本日いただいた皆様のご意見を参考に事業の推進方法を考えていきます。
- ・ 本日は県内各地域のリーダーである皆様との意見交換会となりましたが、各地域単位の協議会でも意見交換会を積極的にしていきたいと考えています。そのような機会がありましたら是非ともお声をかけていただければと思います。
- ・ 今年度からは、機構の駐在員を各地域に配置していますので、事業に関するご相談も駐在員にお気軽にお尋ねいただければ幸いです。

熊本県法人協会との意見交換会概要

日時：平成27年9月15日（火）

場所：ホテル熊本テルサ 2階ひばり

平成27年9月15日に、熊本県農業法人協会と農地中間管理機構との意見交換会を開催しましたが、概要は以下のとおりです。

（法人協会会長挨拶）

農地中間管理事業の参加者（出し手）がなぜ少ないのか、考える必要がある。法人協会として何ができるのかを考えてもらいたい。地域に戻って、事業の周知もお願いしたい。

意見交換会

（A氏）

借受希望を出しているが、説明にあったように出し手が少なく農地は見つからないようです。農地が出る可能性が少ないなどの情報があれば、お知らせいただきたい。

→（公社回答）

借受希望者に対しても農地情報を提供するようにしていきたい。

（B氏）

耕作放棄地があるが、未相続なので借りられない。税率を上げるのも耕作放棄地を動かす有効な方法と思う。

→（公社回答）

遊休農地を解消するため、農業委員会は遊休農地調査と所有者の意向調査をすることになっている。機構に貸したい意向がある農地のリストが上がってくれば、借受け希望者の中から選定し貸すことになる。未相続農地であっても、一定の権利者の同意が得られれば、機構借入は可能である。

(C氏)

条件がよくない農地の賃借料の設定はどうか。

→ (公社回答)

賃借料は地域、形状、位置によっても異なる。山間地の農地は使用貸借もある。基本的には、地域の標準的な単価で設定されている。

(D氏)

私の営農地域では耕作放棄地が増えている。特に果樹では、管理をしないと蔓が巻いてしまう。機構では申し込み後に管理してもらえるのか。

→ (公社回答)

申し込みを受けて登録し、マッチングを試みていく。マッチング後の手続きが整うまでは、所有者が適正に管理してもらうことになる。

(E氏)

期間借地ができれば中間管理を活用できるが、どうか。

→ (公社回答)

現在、期間借地の取り扱いについて調整中。近々、方法を明示したい。

(F氏)

いろいろなところから農地を借りているが、集約化ができるのか。

→ (公社)

受け手同士が話し合っ交換することもできる。

単純に農地を集めたい地域に借受希望を出し、農地を集積しながら、遠いところを手放していくしかない。